

飯能市民合唱団のみなさん

石塚です。

今週は少し配信が遅れてしまいました。申し訳ありません。
実は昨日、現在演奏会へ足を運ばない方々にもコンサートをお届けしたいと収録コンサートの撮影を行ったのですが直前に体調を崩してしまい、念のためにPCR検査を受けて陰性を確認しての撮影となり大変慌ただしくなっていました。おそらく軽い風邪だったと思うのですが本番前で気を付けて免疫を高めていたので頭痛が出ただけで発熱することもなく撃退できました。しかし新型コロナの場合は発症しなくても感染力が有るとのことで念には念を入れての撮影に臨みました。季節の変わり目、皆さんもご注意ください。コンサートはDVDにして後日発売しますので年内には皆さんにもお届けできると思います。

配信が遅れた前置きが長くなってしまいました。合唱団の方でも今週は動きがあった事をお聞きしています。活動再開へ向けて困難は山積みですが、みんなの力を合わせて少しずつ乗り越えていきたいと思っています。全大会で山田さんが作成してくださった紙媒体での配布を受けた方もいらっしゃると思います。また合唱団のホームページにも掲載してくれるとのことでご協力に感謝しております。

さて、ようやく本題に入りますが今回は「母音」と「子音」のお話をしたいと思います。今回は少し「発声」からは離れてしまうかもしれません。

全ての言葉には母音と子音があります。日本語に置いて母音は「いえあおう」の五つのみです。

国語の時間に「あいうえお」と教えるようになった理由を石塚は知りませんが母音の構造から言うと「いえあおう」が正しい順番です。

これは欧米の言語に比べると圧倒的に少ない数です。

比較的母音が少なめのイタリア語でも「e」と「o」は明確に二種類の母音に別れています。フランス語は「e」だけで五種類くらいあります。

それに対して子音は「母音以外のすべての音」です。

日本語では「いえあおう」は母音のみで構成される言葉(これが日本語の歌唱を難しくしています)そしてそれ以外は「子音+母音」の組み合わせでできています。

「た」は「T」と「A」、

「ぼ」は「P」と「O」で出来ています。

日本語は基本的に全て子音ひとつに対して母音ひとつの組み合わせです。

ローマ字で表記すると「TSU」や「SHI」のように子音が二文字あるように見える言葉もありますが、これも「TS」「SH」でひとつの子音とみなすので「子音 1+母音 1」です。

対して欧米原語には「二重母音」「二重子音」「三重子音」・・・という言葉があるので一見難しそうですが発声においては子音は多ければ多い方が歌いやすいです。(ロシア語など子音が5つもつく言葉があります)

それはなぜかと言うと発声の時に話した「歌う前の準備」の時間に子音を使えるからです。

子音を言っている間は声を出さず準備の時間、母音になった時が声が出る瞬間です。

ですので音楽に乗せたときに大事なのは「歌いだしの拍に置いて母音を響かせる」という事です。

わかりやすく例を出して「里の秋」の歌
いだしを考えましょう。

「しずかなしずかな
さとのあき」

母音と子音に分解するとこうなります

「SHI/ZU/KA/NA/SHI/ZU/KA/NA/
SA/TO/NO/A/KI」

歌いだしの音は「し」ですが、音譜の
ところには「SHI」の「SH」ではなく「I」が
来る必要があります。

歌いだしの音で子音を言い始めていると必
ず歌が遅れます。

という事は「子音は常に音の前に来る」と
いう事になります。

これは子音の多い原語、たとえばドイツ語
の「FREUDE」だと、より分かりやすいと
思います。

第九の歌いだしで音から「FR...」と言っ
たら間に合いません。

日本語では常に子音が一つですのでつい
つ母音と一緒にになってタイミングが遅れ
てしまう事が多いです。

また子音を音の前にしっかり言えてない
時は、身体の準備が出来ていないので結
果として良い声は出ません。

発声の時に「歌う前に身体を使って息を
使う」というポイントが子音と母音の役
割で考えるとより明確になると思いま
す。

もう一つ大事な事は子音がない

「いえあおう」の歌いだしです。

たとえば「うみはひろいな
おおきいな」

「U/MI/WA/HI/RO/I/NA/
O/O/KI/I/NA」

母音だけで子音がない言葉の歌い出しは
声が遅れる名所です。

これは母音の前に子音がない事で身体
の準備が遅れて響も発声も遅れてしま
うのが原因です。

こういう場合は歌いだしの母音を二つ
あると思って歌いましょう。

「UU/MI/WA/Hi/RO/I/NA/
OO/O/KI/I/NA」

こう考えると本来子音がある場所で息
と身体の準備をするイメージがつかめ
ると思います。

日本語を歌う時にもアルファベットで
考えることは子音と母音を明確にする
うえでも役に立ちますが声を響かせ
るイメージにも役に立ちます。

「あ」よりも「A」、「い」よりも「I」
と
思って歌ったほうが響の空間がある
縦に響いた声を作りやすくなります。

最近の楽譜は海外のひとにも読める
ように歌詞にローマ字が振ってある
ものが増えてきましたが、日本人にと
ってもローマ字で歌詞を理解する事
はとても大事なことです。

今日は「母音」と「子音」について
書きました。

次回は母音を響かせるときのポイント
について書きたいと思います。

今回は推敲する時間が無かったの
でもし誤字脱字がありましたらご容赦
ください。

10月22日

石塚幹信